

中等教育研究開発室年報 第34号（2021年3月31日発行）別冊電子版  
2020年度 授業実践事例

芸術科（美術） 中学校第1学年

鳥獣戯画を完成させよう！

授業者 森長 俊六

（校内研究授業）

広島大学附属中・高等学校



# 中学校 美術科学習指導案

指導者 森長俊六

日時 2020年11月30日（月） 第1～2限（8:40～10:30）

場所 美術教室

学年・組 中学校1年B組 42名（男子22名，女子20名）

題材 『鳥獣戯画を完成させよう！』

## 授業について

『鳥獣人物戯画』，いわゆる『鳥獣戯画』は甲乙丙丁の4巻からなり，中でも甲巻のウサギやカエルが相撲をとっている場面は，誰でも見たことのある有名な絵巻である。ところが，この絵巻は，詞書もなく，また，失われた部分を省いてつないでいる箇所もあるらしく，順番が入れ替わったり，場面のつながりに不自然なところが複数有るといわれている。したがって，ストーリーの多様な解釈を可能にする本題材は様々な発想を引き出すには好題材である。また，何百年も前の作品ではあるが，「漫画のルーツ」ともいわれているこの作品は，現代でも親しみを持って取り組むことができる題材である。

このクラスの生徒は，集中して制作活動に取り組むことができる一方で，自由に豊かに発想することを苦手とする生徒が散見される。自由気ままに作品を解釈する活動を通して表現活動においても多様な発想で豊かに構想する力を養いたい。本題材では，物語を読み解くだけでなく，物語を組み立てるといった活動をグループで話し合いながら進めることによって，発想力や構想力を豊かにするだけでなく，いろいろな考えを認め合う雰囲気も根付かせたい。

絵巻の学習としては，前回『信貴山縁起絵巻』を取り上げ，絵巻の基本的な鑑賞方法を学習した。その他，吹抜屋台や異時同図法などにも触れている。今回，甲巻の縮刷版を分断して3～4人のグループに配付し，生徒は相談しながらストーリーを展開すべく1本につなぎ合わせるという活動をおこなう。つなぎ合わせる場面では，思考力・判断力を養い，根拠を示しながら発表する過程を通して表現力の育成も図りたい。また，白描の勢いや美しさ，生き生きとした動きにも気付かせたい。つなぎ合わせる場面では，全体の筆致などにも注視させ，必要に応じてオリジナルな場面挿入も考えさせたい。生徒発表の後は『鳥獣戯画』の修復に直接関わってこられた多田羅多起子先生にご講評をいただき，文化財修理についてのお話を伺う。

## 目 標

1. 対象や事象を捉える造形的な視点について理解し，創造的に表現する。（知識及び技能）
2. 豊かな発想で作品に対する見方や感じ方を深めたりする。（思考力，判断力，表現力等）
3. 絵巻に親しみ，楽しく取り組もうとする。（学びに向かう力，人間性等）

## 学習計画（全3時間）

第一次 つなぎ合わせてストーリーを考え，発表する・・・（2時間）・・・（本時）

第二次 不足部分の絵を考え発表する・・・（1時間）

## 本時の学習目標

- ・対象や事象を捉える造形的な視点について理解する。(知識及び技能)
- ・豊かな発想で作品に対する見方や感じ方を深めたりする。(思考力, 判断力, 表現力等)
- ・絵巻に親しみ, 楽しく取り組もうとする。(学びに向かう力, 人間性等)

## 本時の学習計画

	生徒の学習の流れ	教師の役割など
導入 (10分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○『鳥獣人物戯画』の学習であることを知る。(資 p.1)</li> <li>・『鳥獣人物戯画』について知る。</li> <li>・ワークシート①を受け取る。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○本時の活動予定を知る。</li> <li>①グループ毎に分断された絵巻を受け取る。</li> <li>②グループ内でストーリーを考えながらつなぎ合わせる。</li> <li>③グループ毎に組み立てたストーリーを全体に発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○『鳥獣人物戯画』を簡単に紹介する。</li> <li>・詞書がない。</li> <li>・失われた部分を省いてつないでいる箇所もあるらしく, 順番が入れ替わったりして場面のつながりが不自然なところが複数有る。</li> <li>→多様な解釈が可能であることを強調する。</li> <li>○前半部分は分断せず, 後半部分を検討させる。</li> <li>・前半の部分について解釈を例示する。</li> <li>iPadのアプリを使用</li> </ul>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">鳥獣戯画を完成させよう！</div>		
展開1 (40分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○グループ内でストーリーを考えながらつなぎ合わせる。(ワークシート②)</li> <li>・全体に発表する準備をする。</li> <li>・発表者決めなど(代表or分担)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○つなぎ合わせる際, 根拠を明確にさせる。「○○が描かれているから。」「表情が○○だから」など</li> <li>・しっかりみる。</li> <li>・他者との意見交流により多様な解釈を試みる。</li> </ul>
展開2 (15分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○グループで構想した内容を全体に発表する。</li> <li>・他グループの発表も興味深く聞き, 自分たちとの違いも認め感想をかく。(ワークシート①の2)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○根拠を明確に示させる。</li> <li>・他者の考え方や感じ方を尊重させる。</li> <li>・自分なりの感じ方で味わうことのよさに気づかせる。</li> <li>・書画カメラを活用させる。</li> </ul>
展開3 (30分)	講師の先生による講評とレクチャー (ワークシート①の3)	
まとめ (5分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本時の活動について振り返る。(ワークシート①の4)</li> <li>○次時の内容や準備物を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○活動を振り返らせる。</li> <li>・積極的に参加できたか。</li> <li>・豊かな解釈をすることができたか。</li> <li>・他者の見方に共感できたか。</li> </ul>

**準備物** 生徒：教科書（日本文教出版株式会社2・3上），美術資料（秀学社），筆記用具  
 教師：『鳥獣人物戯画』の縮刷版，ワークシート，書画カメラ，大型テレビ，iPad

『甲巻』 cm× cm

1. 概要

『鳥獣人物戯画』いわゆる『鳥獣戯画』は甲乙丙丁の4巻からなり、中でも甲巻のウサギやカエルが相撲をとっている場面は、誰でも見たことのある有名な絵巻である。ところが、「漫画のルーツ」ともいわれているこの絵巻は、( )もなく、また、失われた部分を省いてつないでいる箇所もあるらしく、順番が入れ替わったりして場面のつながりが不自然なところが複数有るといわれている。7年前に、大がかりな修復を終え、新たな発見が多数紹介され話題になった。

2. 他の班の発表を聞いて次の項目を◎○△であらわそう

- ①発表の仕方、態度、わかりやすさ
- ②解釈に合理性、説得力があるか、根拠が明確に示されているか
- ③細かい所まで深く読み込んでいるか

班	感心した見方や納得した点	①	②	③

3. 講師の先生のお話を聞いて（大事な点をメモしよう）

4. 今日の学習を振り返ろう

◎ ○ △

・グループの活動に積極的に参加できたか。	
・自分たちの班のストーリーづくりには自信がある。	
・自分の考えを広げたり深めたりできたか。	
考えたこと気付いたこと感じたこと。	

記号	ストーリー，根拠など

## 実践上の留意点

### 1. 授業について

1 限目は、分断された鳥獣戯画をグループで相談しながらつなぎ合わせてストーリーを考えさせる。

2 限目の前半は2～3のグループに考えたストーリーを発表させる。その後は講師による講評と修復に関する講話。

- ・講師は文化財の保存と修復を専門とする岡墨光堂に20年近く勤務され、先月広島大学の教員として着任された多田羅多起子先生。鳥獣戯画の修復にも関わってこられた。
- ・用意したレプリカが小さいので細かいところなど詳しく見れないのが申し訳ない。せめて実物の1/2程度の大きさがあればもっと見やすかったと思う。(用意したレプリカは1/3程度の大きさ)
- ・グループ活動では、しっかりと鑑賞させるために十分な時間を取った。
- ・発表については、皆を見ながら大きな声でという基本的な態度、簡潔明瞭にというのができていない。この点は美術だけでなく色々な場面(教科)で指導していく必要がある。
- ・今日は講師の先生を招き2時間目後半でレクチャーをして頂くので発表グループの数を減らした。

### 2. 講師の先生より

- ・表情を見ながら話を構築するということがよくできていた。
- ・前時の『信貴山縁起絵巻』の学習が生かされている。絵巻の基本的な見方、左が未来、右が過去、などの約束事を理解していたからこそ今日の内容が充実し深みが増した。
- ・グループ活動中に授業者が「ハンコ(紙のつなぎ目に押してあるハンコ)の間隔で推測してはならない。なぜならばハンコの間隔は一定ではないから」と言っていた。まさにその通りなのだが、ハンコの間隔や紙の色の濃さ、もっと言うと紙の繊維の質などで推測するというのはまさに我々研究者の視点である。

### 3. 研究協議より

- ・自由な発想する中でも、その根拠をちゃんと生徒たちが言っていたので根拠を示すと言うことを普段から指導なさっていると感じた。
- ・今日のクラスは男女ともよくコミュニケーションがとれていると感じた。1グループだけ疎遠だった気がする。  
→そのグループは確かに男女で活動するという動きにはなっていなかったのが前回の授業では席を移動させ、男女が対角になるよう指示した。こうすれば男子女子のそれぞれ平行の関係が崩れ4人が中央を向かざるを得なくなる。佐藤学の提唱している方法である。他のグループにおいてはその必要がないため現状通りとしているが、クラスの状況によっては全体的にクロスの座席を設定する必要がある。
- ・講師の先生の話が大変興味深く、昔の物の修復だが遠い未来までも見ているということを感じた。
- ・見ていたグループは、表情を読み取りながらよく鑑賞していた。
- ・講師の先生の話も良かった。2時間がうまく使われていた。
- ・色々発達し、AIも進化しているが、やっぱり手作業で昔ながらの糊を使っているとかの深みを生徒も感じ取ってくれたことだろう。

